

○内島典子(北見工業大学 地域共同研究センター)

輔師 守(北見工業大学 地域共同研究センター)

1. はじめに

北見工業大学は日本最北端の国立大学であり、その立地環境を最大限に活かした寒冷域工学の拠点形成を目指している。平成16年4月の法人化後、各国立大学では、学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学経営体制の構築、法人化のメリットを活かした教育研究機能の強化など、様々な取組みを展開している。北見工業大学では、教員の任期制、競争的資金獲得状況や学生への教育姿勢による教員の点数制評価制度、などを取り入れ、また、研究推進センターと呼ばれる大型研究プロジェクト組織14チームを発足させた¹⁾。研究推進センターは、地域独特の課題への取組みや共同研究の実施、大型外部資金導入へと繋がる競争的資金獲得への提案などに取り組んでいる²⁾。本学全体の研究力向上と研究の個性化、活性化、高度化を目指す中で、研究推進センターは若手研究者の研究活動の場の一つともなり、研究意識の向上に繋がっている。研究推進センターには、教員の半数が参画している³⁾。平成18年度における教員評価結果では、教育・研究・大学活性化・社会貢献活動の総合評価点は着実に上昇しており、評価項目別評価点においては、外部資金導入と研究業績は飛躍的に向上している⁴⁾(図1)。

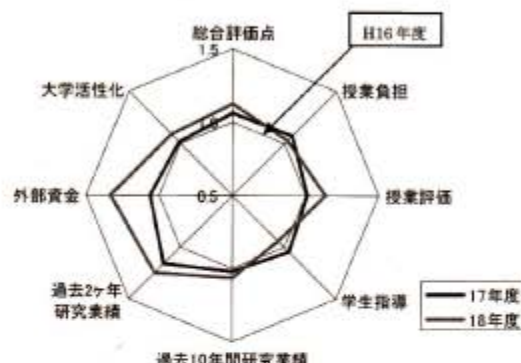


図1 総合評価点および評価項目別評価点の推移
平成16年度における評価実績を基準値(1.0)とする

2. 研究推進センターの課題

研究推進センターの活動は3年毎に評価される。評価結果は、センターとしての活動の継続可否判断や大学が研究推進センターへの支援として行っている教育研究活性化経費(学長裁量経費)配分の見直し、などに反映される。研究推進センタープロジェクトは、平成17年度から開始されていることから、大学はセンター個々の活動を評価するとともに、本プロジェクトのシステムそのものについても評価を行う時期を迎えている。現在、各センターの活動は自主性に委ねられており、そのため、重点を置く活動は様々である(表1)。各センターにおける活動を取組み別に比較するとその温度差は大きい。この状況を受け、今後継続して研究推進センターを設置・運営していく上で、学科横断型プロジェクト設置価値の再確認や各センターの活動を評価する項目・基準の設定、大学が行う各センターへの支援方法の改善など、各センターの積極的な活動を引き出すための環境整備に向け、検討すべき課題が明らかにされつつある。

表1 研究推進センターの取組みと大学の活用

		研究推進センター														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
研究推進	取組	研修会・勉強会	○						○	○			○		○	
		大型プロジェクト提案				○		○			○			○	○	
		地域への啓発セミナー・フォーラム												○	○	
		自治体との共同研究	○		○											
大学	活用	技術広報・大学の研究紹介	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		大型プロジェクト獲得に向けた提案	○	○												
		科研費等採択数増加へ向けた申請数拡大	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- 1) 「大学における研究力向上への新たな取組み -学科の枠を超えた研究プロジェクトチームの発足-」、産学連携学会第4回大会(平成18年6月)内島典子、輔師守。
- 2) 「大学における研究力向上への新たな取組み(第2報) -学科の枠を超えた研究プロジェクトチームの取組み-」、産学連携学会第5回大会(平成19年6月)内島典子、輔師守。
- 3) 「大学における研究力向上への新たな取組み(第3報) -学科の枠を超えた研究プロジェクトチームの効果-」、産学連携学会第5回大会(平成19年6月)内島典子、輔師守。
- 4) 北見工業大学における教員評価制度と評価結果の報告(http://www.kitami-it.ac.jp/pubdoc/kyouin_hyouka_kokka_H18.pdf)